

平成28年度学校評価表

学校法人 倉橋学園 キラリ高等学校長 倉橋 義郎
 学校法人 倉橋学園 キラリ高等学校関係者評価委員長 伊藤 郁史

H28. 12. 14

学校番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制
------	----	---------	----	-----

A：よくできた	B：だいたいできた
C：不十分だった	D：ほとんどできなかった

今年度の重点目標（学校経営目標）		具体的取り組み計画	自己評価	成果と課題 自己評価	関係者評価
ア	通信制高校が抱える様々な課題克服の為に総合的な教育力の充実を図る。	①基礎的な学力の定着や自主学習習慣の定着を図る取組。 ②学校内外での生活指導を通してモラル・規範意識・社会常識を教える。 ③発達障害を持つ生徒や、独力では学習に困難を抱える生徒への個別指導を強化する。 ④難関大学進学希望者の学力向上。 ⑤社会適応能力養成などによる就職支援の強化。	B	①通学・通信間で格差が生じている。放課後の個別指導で確実に基礎学力が定着している生徒もみられるが、まだ不十分である。②学校生活の心得が定着してきた観はあるが、問題行動が全てが解消したわけではなく、様々な場面で生活指導を行う必要がある。③特別支援が必要な生徒に対する共通認識が保持できるようになって来たが、これを強化するには一層の教員増が必要である。④難関大学希望者の意識改革から始める必要がある。⑤進路課を中心に早い時期からの就職に対する意識付けができたが、通学・通信間で温度差があり、特に通信生への働きかけが課題である。	B
イ	生徒1人ひとりの個性を伸ばすきめ細やかな対応をするため、教職員を増員し配置する。	①多様な生徒（不登校・問題行動・発達障害等）に、学習への動機づけや学びへの意欲を喚起できる教員養成を図る。 ②個別指導、部活動支援、キャリア教育、インターンシップなどに十分対応できる教員数を確保する。 ③教職員の組織化を推進してより機能集団にする。校内外の実践研修を継続的に実施し、生徒に対する指導力や保護者との対応力を向上させる。 ④未履修や休学中の生徒やその保護者へのアプローチを積極的に行い履修や復学を促す。	C	①1年目教員の内部研修は行われたが、中堅教員以上の研修は外部研修会を含め、十分な教員養成とはいかなかった。②各分野における充分な対応を行うには校舎間の偏りがあり、生徒増に見合った教職員の増員が必要である。③各教科・各分掌による機能集団で行動するというより、個々の能力に負うところが多く、今後各分掌の在り方・横断的つながりを密にしてさらに組織化をすすめる必要がある。④未履修や休学中生徒に対するアプローチは積極的に行い、随時家庭訪問を実施して復学への取組を行ったが、まだまだ不十分である。	B
ウ	技能教育施設との連携推進	①通学スタイル充実のためのコース制を継続する。 ②スクーリング会場の教職員を増員する。	B	①コース制の継続により通学スタイルの充実が図られ、他のスタイルとの相違点を明示することができた。特に、キャリア・アシストコースは生きる力を身につけさせるために4つの柱を軸にしたカリキュラムを構築し、充実した活動内容となった。芸術コースは、生徒の満足と成長が明確に示され、さらなる充実を目指したい。②校舎間の偏りを是正する必要がある。	B
エ	吉田本校の充実	平常スクーリングの週3日実施を継続し、部活動、キャリアデザイン、インターンシップ、ボランティア等様々な活動を通して高校生活の充実を図る。	B	技能連携の各スクーリング会場との差別化を図るために、二曜日に特別講座（資格取得のためのスキルアップ講座やパソコン指導など）を行った。また関係団体と連携したキャリア教育・保護者に対する進路講座を実施した。特別支援学校への運動会支援（ボランティア）、「輝祭」へのワークセンター「さくら」招聘など地域交流を通して高校生活の充実を図った。部活動も複数実施できたが、個々の教員の自主性に負うところが多く、今後校内の基本方針を明確化する必要がある。	B
オ	発達支援教育モデルの構築継続	特別支援教育の学校・学級や放課後デイサービス等の発達支援施設と交流・連携し、発達支援モデルを構築する。昨年実施の静岡校に続き本年は浜松校と沼津校も加えて実施する。	B	年々、特別支援学校または各中学の特別支援学級との連携が密になっており、放課後デイサービス部門との情報共有が図られてきた。また、特別支援教育関係の説明会参加によって各方面からの評価も多く聞かれるようになった。今年度より全スクーリング会場にキャリア・アシストコースを設定したが、コースに所属していない特別な支援を必要とする生徒をどのようにフォローしていくか、また、実際の就職支援・外部への働きかけが今後の課題である。	B
カ	I C T教育および校務システム整備事業	①インターネット授業配信システムの充実・添削指導デジタル化の準備。 ②校務支援システムを静岡県立高校仕様への変更を継続する。	B	①インターネット授業配信システムは昨年大きく変更し、システム・画質等は格段に充実し運用できているが、アップロードする教員側に操作ミスやアップする時期の遅れなど課題が残る。添削指導のデジタル化の準備は、まだ進んでいないのが現状である。②校務支援システムは徐々に変更することができて来たが、静岡県立高校仕様に対応させるためには、様々なカスタマイズが必要となっている。ただ、レポート入力・出席入力等のミスはなくなり、効率はかなり良くなった。	B